

嬉野リジェネラティブ・ヴィレッジ構想 (骨子のみ)

— 放棄茶畑と春日溪谷の再生から始まる、土といのちの循環 —

1. 背景と課題

嬉野市は古くから日本有数の茶どころとして知られ、豊かな自然と温泉文化に支えられてきました。

しかし近年、

- 茶産業の衰退（高齢化・後継者問題・農薬問題・輸出規制）
- 放棄茶畑の増加
- 土壌・水質の悪化
- 春日溪谷の荒廃と通行止め
- 若者の地域離れといった課題が重なり、地域の魅力と活力が失われつつあります。

特に春日溪谷は、かつて観光客や市民の憩いの場として親しまれた場所でしたが、ここ数年は手が入らず、通行止めが続いています。

美しい自然景観が再生されれば、**“嬉野の新しい観光資源”**として再び人を呼び戻す力を持っていると考えられないでしょうか。

今、生まれ変わりをしなければ、廃れる状況を変革することは決してできない。

2. 基本理念

土を癒すことは、人を癒すこと。

人を癒すことは、地域を癒すこと。

「嬉野リジェネラティブ・ヴィレッジ」は、
放棄茶畑や溪谷の自然を再生し、
人・自然・文化が共に生きる循環型コミュニティを築く構想です。

この“**Regenerative**（リジェネラティブ）＝再生”という考え方は、
単なる観光開発ではなく、
癒し・教育・共生を核にした「いのちの再生プロジェクト」です。

3. 構想の目的

1. 放棄茶畑・春日溪谷の再生による自然回復

荒れた農地・溪谷を再整備し、自然循環と景観の美しさを取り戻す。

2. 自然体験・教育・観光の融合拠点の形成

春日地区の地域住民・外部からの若者・外国人が共に楽しめる体験型拠点を構築。
（しかしながら、もし地元の協力を得られないならば、他の地域、例えば吉田地区をパイロットヴィレッジに）

3. 国際的な地域交流と共生の促進

外国人居住者や佐世保基地関係者などと連携し、
英語によるキャンプ・農業・文化体験イベントを開催（別紙：嬉野リジェネラティブ・キッズ・キャンプ構想）。

4. 構想の主要プロジェクト

分野	内容
農と環境	放棄茶畑を自然栽培・果荷・ハーブ・花などへ転換。リジェネラティブ農法導入。
溪谷再生	春日溪谷の整備、通行止めの解除を行政と連携。遊歩道・キャンプサイト・エコツーリズム導入。
教育・体験	自然体験・英語キャンプ・食育・健康プログラムを企画 例：自然の中で、食の学びと食育体験。
地域ブランド	「癒し・温泉・自然・国際交流」をテーマに、嬉野ブランドとして発信。

地域ブランド

＊国際交流 佐世保基地関係者や外国人居住者との協働による国際交流イベント。

例1：国際親善塩田嬉野マラソンー最終地点は横竹ダム。ダム公園が整備されれば、マルシェ、食べ物店出店やイベントが可能となる。

例2：英語を使った農作業体験・キャンプ・食文化交流。

例：国際吉田焼き絵付け大会ー吉田焼きの絵付けを競う、または、陶器や磁器のデザイン画のコンペティション、賞を決めて表彰。年齢、居住地、国籍に関わらず、自由な発想の新しい陶器デザイン。

5. 期待される効果

- ・ 放棄茶畑・溪谷の再生による環境改善
- ・ 外国人・若者の地域参加による多文化共生促進
- ・ 自然を生かした観光・教育の活性化（特に食育）
- ・ **健康志向・エコツーリズムの新しい市場創出**
- ・ 市民の誇り・地域の絆・子どもたちの未来の回復

＊健康志向・エコツーリズムに関して：3つの可能性

分野	名称	主な目的	主な担い手
農業・観光	里山ウェルネス・ステイ	交流・癒し・教育	農家・高校生・外国人
農業再生	ベリー&ハーブ果樹園	放棄茶畑再生・新産業	若者・市民・農業希望者
環境教育	春日溪谷ウォーターアカデミー	自然保全・啓発	高校・市民団体・教会関係者

モデル①：里山ウェルネス・ステイ（農家民泊＋自然体験）

概要

放棄茶畑跡や山の民家を活用した「癒しと学びの宿」。
宿泊者は、農作業・収穫・地元食材の料理・自然散策を体験。
外国人との英語交流や、地元高校生のガイド参加も。

特徴

地元農家に新しい収入源を提供。
外国人・都市部の若者が「農的体験」を求めて訪れる。
健康・教育・観光の要素を一体化できる。

実施例

「Organic Farm Stay Ureshino」
「癒しの田舎リトリート・うれしの」
週末体験型（1泊2日～2泊3日）で展開可能。

モデル②：ベリー&ハーブ・リジェネラティブ果樹園

概要

放棄茶畑を再生して、ベリー類・ハーブ・ヨモギ・椎茸などを組み合わせた複合栽培。

一部は温室化し、果樹栽培希望の若者を公募。

生産＋体験＋加工＋販売を地域内で完結。

特徴

ベリー類は翌年から収穫が可能で採算が早い。

ハーブオイルや野草茶など「健康商品」として付加価値が高い。

市民や高校生が参加できる「週末農業」や「ハーブスクール」も展開できる。

実施例

「リジェネラティブ果樹園プロジェクト」

「ブルーベリーと森のハーブ体験園」

モデル③：春日溪谷ウォーター&エコ・アカデミー

概要：

通行止めで失われた春日溪谷への関心を「教育・芸術・信仰・感謝の視点」から再生。

溪谷の自然映像・水の循環展示・小学生・高校生の環境学習拠点に。

“川を守ることが私たちのいのちを守ること”という価値観を伝える。

特徴

溪谷を直接使わず、「水の循環」「感謝」「保全」を学ぶ拠点を地域内に作る。

市民の理解を深める啓発活動にもなる。

高校の観光科・環境科との連携教育プログラムに発展可能。

実施例

「春日の水をめぐる物語展」

「リバー・リジェネラティブ・スクール」

6. 将来ビジョン（2026～）

2025年：構想準備期

理念共有・関係者ヒアリング・溪谷現地調査

2026年：再生プロジェクト始動

モデル農地整備・春日溪谷再生ワークショップ開始

2027年：地域ブランド確立

英語キャンプ・健康リトリート・観光プログラム展開

7. 終わりに

春日溪谷の風がもう一度、山と町をつなぐとき、

嬉野はきっと、新しい命の息吹に包まれます。

嬉野リジェネラティブ・ヴィレッジは、

放棄茶畑と溪谷の再生から始まる――

人と自然、そして未来への贈りものです。

以上は、骨子のみで、説明を入れなければ、関係者は突然の構想に戸惑われることと思います。この4年間、コロナでライフスタイルが代わった人や、コロナ接種による副作用で亡くなったり、病気の人が増えている現状があります。しかし今生きている人々は、悲しみに負けるのではなく、家族や仲間のために前進すべき時です。

新しい総裁・総理も誕生しつつあり、ちょうどよい時期に当たります。新市長が誕生するかどうかわかりませんが、いずれにしても、この時期、ホコリの溜まった脳細胞を活性化させ、新しいことに挑戦するにはもってこいの刺激的な構想ではないでしょうか。科学技術の発達により、チャットGPTによって、私の構想は具体的になりました。

この構想においては、反対の方々もおられると思いますが、協力者が見出されれば決して不可能ではありません。良い未来のためにご参考にさせていただきたく思います。

後日、項目別の説明を加えます。

（文責：Takako Delaura 構想）
2025年10月